

ちょうふ環境市民懇談会 第4回全体会を開催します

2月19日(土)午前11時～16時

たづくり11階みんなの広場

～ 今年のテーマは、『未来に残そう調布の自然を』 ～

調布の自然を保全していくために、活動の紹介や活動の参加のきっかけにする機会となることを目的に開催し、活動の展示のほか、以下の体験コーナーを開催します。全て無料です。

体験コーナーでは、

丸太切り体験（入間・樹林地にあった杉の丸太を切り、時間を競い合います。切った切り株は持ち帰ってコースターにでも？）

稲わらとシュロの縄なえ（調布のたんぼでとれた稲や雑木林にはえているシュロをつかって、縄づくりをします）

シュロのバツタづくり（シュロの葉をつかってバツタを作ります）

クイモの試食や甘茶ヅルのお茶の試飲もできます。



可愛いシュロバツタ作ります

ミニ・ガイドウォークは、調布駅北口に午後1時集合し、環境モニター 環境調査ボランティアが調布駅周辺・布田天神付近のお勤め樹木巡りを約1時間半かけて案内して歩きます。みんなの広場で解散しますので全体会の様子も体験してください。飲み物は持参のこと。

申し込みは、2月16(水)まで、・問い合わせ先：環境保全課（81-7086）

調布の自然 生き物編 その11

調布の雑木林の蝶

先日、雑木林塾でかに山の笹刈りをした。そこは初夏にヒカゲチョウを見かけた場所だ。ヒカゲチョウは、名前の通り薄暗い樹林に棲んでいてあまり目立たない蝶だが、日本固有の種である。というとなんだか珍しい蝶のように聞えるが、同じ仲間のヒメジャノメとともに雑木林ではよく見かける普通種だ。両者とも幼虫はアズマネザサを食べる。今ごろ幼虫がこの笹原のどこかで寒さに身を縮めているはずだ。

見上げれば、寒空にコナラが枝を伸ばしている。あの枝先のどこかで、アカシジミやミズイロオナガシジミの卵が、春の到来を待ち侘びていることだろう。ゼフィルスとも呼ばれるこの仲間は、かつては数種類いたが、昨今の管理放棄された林ではどこでもこの2種類が、ミズイロオナガシジミだけになっているようだ。かに山でも去年、アカシジミは一匹しか見つけられなかった。（山室）



ヒカゲチョウ



アカシジミ



ミズイロオナガシジミ

入間・樹林の会

雑木林塾 第4回講座



1月16日、方形枠調査と西側樹林地のマップづくりの下見をしました。雑木林塾から8名が参加して、一緒に活動しました。前日からの雨が降り続く中、21名が4つのグループに分かれ方形枠調査をしました。スキルもあったせいか30分ほどで終了しました。3年前に菌を埋め込んだホダ木にはじめて大きなしいたけが1つ育っており初めての収穫となりました。

4番の枠そばの太さ20センチもあるマテバシイの枝が、年末の雪か風のせいか折れ垂れ下がっていました。自然の威力はすごいものです。(後日、緑と公園課が枝を伐採しました)

今後の方形枠調査については、3年間も調査をしたので必要ないのではないか、という意見もでしたが、これまでの調査結果をどのようにまとめ、生かすのかについて、講師の根本さんから「明るくなった樹林地の植生がどう変化したのかをまとめる」などのアドバイスをもらい、継続の方向で意見がまとまりました。西側樹林地のマップづくりや堆肥だめづくりについても話しあいました。

これまでの活動について、根本さんから、調査は、会員全体のモニタリングのレベルアップにつながっていること 樹林の会の会員間の合意形成の上に保全活動につながっていることの評価や 全国雑木林塾などに参加して活動を発表してはどうか、の提案もされ来年の活動につなげていきたいものです。

午後から、入間・地域福祉センターで雑木林塾の座学が世田谷トラスト協会の小出仁志さんを講師に開催されました。「樹林の保全とは」をテーマに、世田谷の樹林活動事例と現状、今後について話してもらいました。話を伺って、調査や保全活動を継続していくことは、大きな力となると痛感しました。世田谷でもトラスト協会の統合の話もあり、活動する人や財源の確保が課題だそうですが、調布市でも市民の関心をたかめ緑の保全活動へ参加してもらおうことが大きな課題です。



安部

雑木林塾 第2回自主活動

1/9(日) 晴れ 参加者6名 10:00~13:00

管理作業による植生の変遷を把握するために、対象地の現状の写真撮影を行いました。シュロ、アオキ等が茂り見通しが悪く、観測場所の選定にチョット一苦労。その後、笹溜め位置の選定と笹溜め予定箇所の笹刈りを行いました。笹の処分方法については、腐食させ土壌に返す、焼き芋をして楽しむ等の意見が出されました。雑木林からの生産物で楽しめる活動を考えていきたいと思えます。また、全体会に備えシュロバツタ作りを行いました。女性陣には意外と好評!? (小島)

ちょうふの自然学習ボランティア

1/21(金) 第3回自主講座 野外活動における安全管理～事故予防・万が一のときに～

講師は、府中青年の家の職員である北見靖直さん。北見さんは、声が大きくて表情豊かで、第一印象でパッと人を引きつける方でした。

午前中は、青年の家で、北見さんの経験を交えて、子どもに対する野外活動事業の安全管理ポイントの講義。「子ども対象」であることにポイントを置いた話でした。午後からは、フィールドに出での危険予知トレーニング。青年の家から多摩川まで行き、河原で観察をした後に青年の家まで戻る、という想定で、各自がそのコースを歩き、危険箇所をワークシートに書き込んでいきました。

終始笑い声が絶えない、楽しい講座ながら、私たちの活動の問題点や課題も見え、今後活かせる中身の濃い内容で、とても勉強になりました。(北谷)

環境モニター

1/8 (土) 曇り

AM 多摩川わんど植物調査

PM 染地地域センターにて標本作製

参加者 7名(多摩川センター及び職員含)

今年初めてのモニタ - 活動は、風の冷たい日でした。草花は、ロゼット状のものが多く、判別が難しいです。陽当たりの良い場所では、ノイバラがまだ青々とした葉に赤い実をつけていました。

大きな水たまりになっているところで、カワセミが水面に急降下を繰り返し、魚を捕っていました。午後は、地域センターに移動して、標本づくりに取り組みました。

(北谷)

何のロゼット?



ノイバラの実

ちょうふ DE 田んぼ日記

その 20

今年も豊作でありますように

この一月間の農作業といえば堆肥の切り返しが主なものです。去年のレポートにも書きましたが、切り返しとは堆肥の上下を入れ替えて中に空気を送り、醗酵を進める作業です。

高く積まれた落ち葉を大きなフォーク(よくテレビでわらや牧草などを積み上げるシーンなどで登場する道具)やスコップを使って切り返す作業は大変な重労働。また今年は去年よりも何倍もの量があって、大人と子供 9 人がかりで目いっぱい 2 時間作業しました。当然、中からはいろいろな生き物や虫たちが出てきて、カブトムシやミミズを集めながらの作業となりました。

1月10日は作業の後、佐須の青年団主催のどんど焼き(左義長)の催しに参加しました。左義長とは元来宮中の行事だったのが、民間で行われるようになったもので、正月飾りや門松、書初めなどを持ち寄ってお焚き上げをします。その火で焼いた餅を食べれば、その一年無病息災というご利益があるといえます。佐須のどんど焼きも毎年の恒例行事となり、年々参加者も増え大変な賑わいとなっています。(場所は祇園寺の向かい、毎年1月の中旬ころの土曜か日曜に行われているようです)

また新しい年が始まりました。天候はどうなるでしょう。

各地で災害や異常気象が相次いだ去年でしたが、今年はいい歳でありますように。

(田んぼの学校 こんどう)



切返し

リレーエッセイ

(保全課職員担当)

昨年12月に旅行でオーストラリアのハミルトン島(ケアンズから飛行機で1時間半)とシドニーに行き、珍しい動物を見ることができた。

ハミルトン島に滞在していた時にはクジャクやイグアナ?(大きいトカゲ)が道路を歩いていたのを見た。どちらも優雅に歩いていたが、都市でこのような姿を絶対に見ることができないので驚き、写真を何枚も撮った。それからレストランに入ったとき、屋根にオポッサムがいるのを発見した。愛らしい顔をしているが、現地の人にとってはフンの問題があり、害獣であるようだ。シドニー近郊のブルーマウンテンの奥地では、昔炭鉱のために使われていたトンネルの暗がりの中で土ポタルという神秘的な光を見ることができた。これを見ることができるのは、ここを入れて世界に2箇所しかないらしい。この土ポタルは蚊の幼虫で、光を出して虫をおびき寄せ食べている生き物である。光はとても弱くはかなげであるが、実は生存競争をしているのである。また野生のコアラを見つけたかったが、人間と共生することは難しいらしく、発見できなかった。コアラは動物園で眺めて帰ってきた。

(倉林)

イベント情報

東部公民館 環境講座（全3回）

つつじヶ丘駅からみえる国分寺崖線では、近年斜面地の開発がすすみグリーンベルトが分断されてきています。今回の連続講座では、NTT 研修所付近(入間町)の雑木林や崖線の特徴や植生について探索し、04.6 に制定された「景観法」はどのようなものか、崖線の緑の保全に役立てるにはどうすればいいのか、市民の立場で考えたいと思います。

2月17日(木) 10:00～12:00

景観法を生かすまちづくり 講師：中井検裕
(東京工業大学大学院社会理工学研究科教授)

2月24日(木) 13:30～15:30

まち歩きで知ろう、発見しよう、国分寺崖線
講師：小出仁志(世田谷トラスト協会)

3月3日(木) 13:30～15:30

隣のまちの景観条例、私のまちの景観条例は
講師：岡寄均(世田谷区職員)
河西保人(調布市職員)

無料・申し込み・東部公民館(03-3309-4505)

環境モニター

日時 2月5日(土) 10:00～15:00
場所 市民プール南土手ベンチ付近
内容 植物調査・写真整理等
持ち物：ルーペ、カメラ、図鑑等

こどもエコクラブ活動

日時 2月5日(土) 10:00～15:00
場所 深大寺自然広場、かに山
内容 簡易炭焼き、木工作
持ち物：軍手

ガイドウォーク

日時：2月19日(土)
場所：13:00～14:30 調布駅北口
内容：調布駅周辺のお勧め樹木巡り
持ち物 飲み物、

【編集後記】

12月になっても暖かい日が多かったのが、暮れにはめずらしく雪が降り、すっかり冬になりました。神代地区にある小さな池にはしっかり氷が張り、丸裸になったムクロジの木の下にはあめ色の実がどっさり落ちていました。(K)

入間樹林の会

日時 2月20(日) 9:30～12:30
場所 入間地域福祉センター
内容 笹刈り、落ち葉かき等
持ち物 作業用服装

雑木林塾

日時 2月20日(日) 13:00～15:00
場所 市役所4階第4会議室
講師 峯岸久雄
内容 樹林の保全管理を始めるために

「実篤公園の整備を考えてみよう」報告会

1月15日(土)、公園整備工事内容の説明報告会に出席しました。木が生い茂って暗くなっていた公園もやっと整備されるようになり日の光も入って明るい武蔵野の面影のある庭園になると期待しています。しかし既に16年度の計画で約150本もの樹が伐採されることになっているとのことでした。具体的に伐採される樹木については、2年前のワークショップで決まったそうですが、整備計画についてのワークショップもなく、一度に伐採することを、市民や環境市民懇談会のメンバーが誰一人しなかったのは残念です。

<会議のスケジュール>

日時	場所	活動名/内容
2月3日(木) 18:30～20:30	たづくり3階 301会議室	環境市民懇談会 運営会議
2月17日(木) 18:30～20:30	たづくり3階 304会議室	環境市民懇談会 連絡会議
2月21日(月) 13:30～17:00	市役所3階 環境部会議室	ニューズレター 編集・次号企画

ちょうふ環境市民懇談会は、調布の自然環境を保全・改善・回復していくために、「話し合いの場や、活動の交流・支援、人材育成、啓発活動、情報の収集や発信」といった活動をパートナーシップをもとに進めていくことを目的に設立されました。ぜひ、様々な環境保全活動へ参加してください。

お問合せ先：調布市環境部環境保全課
TEL：0424-81-7086

E-mail: kankyuu@w2.city.chofu.tokyo.jp

発行：ちょうふ環境市民懇談会